

1－5 釧路沖の海底地質構造

Submarine Geological Map off Kushiro

海上保安庁水路部

Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

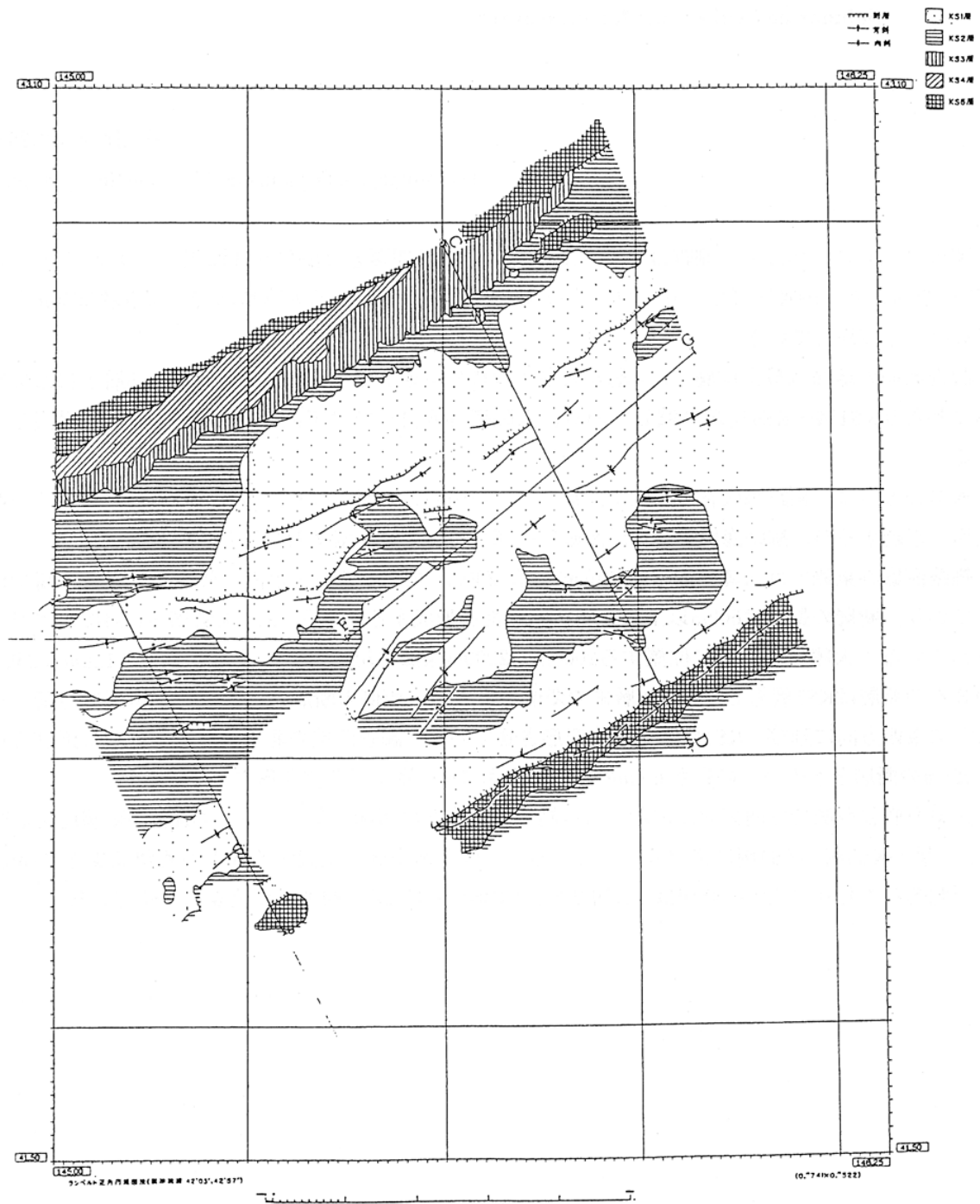
調査は平成8年10月で、測線は北東－南西方向、測線間隔を2海里～4海里としエアガン(GI-150)を用いた。調査区域は、釧路沖の大陸棚から千島海溝に至る大陸斜面で、深さ約3500mまで音波探査を実施している。

調査区域の地層は最上位層のKS1層から最下位のKS5層まで5層に区分され、KS5層上には広範囲にわたりKS1層～KS4層が堆積している。大陸棚外縁付近では下位のKS5層～KS3層が露出している。

構造の方向は、釧路海底谷の東側では東北東－西南西方向が卓越し、西側では東西、東南東－西北西が卓越するが、釧路海底谷と広尾海底谷の間では北北東－南南西を示している。

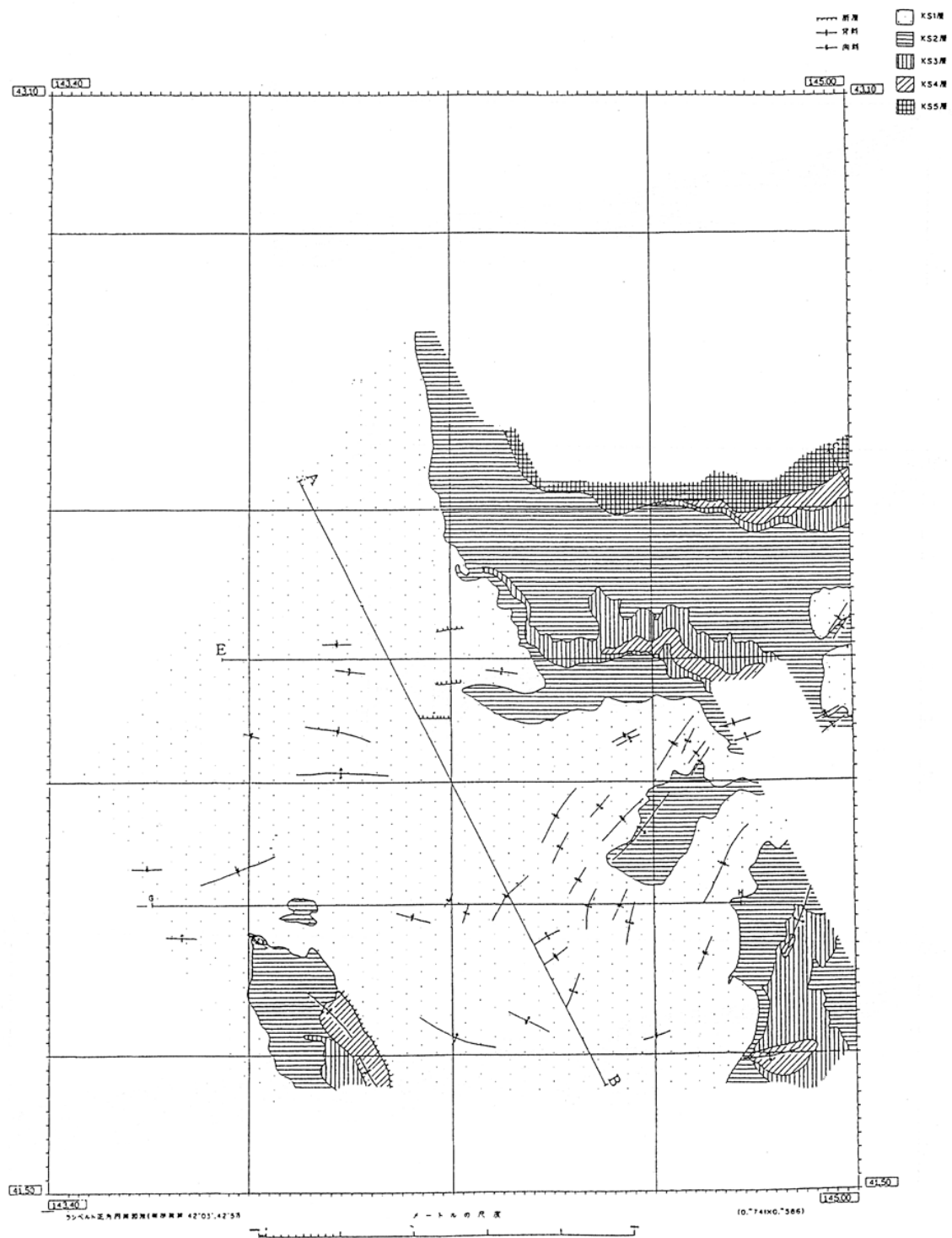
釧路海底谷東側では大陸斜面下部に位置する3200m～3300m深海平坦と外縁隆起帯は断層で接しており、断層の長さは60km以上になり、隆起帯を形成するKS5層に対しKS1層～KS4層がアバットしている。大陸斜面上部に位置する2000m～2200m深海平坦面付近に分布する長さ12km～25kmの3本の断層はKS1層もしくはKS2層まで変位変形させ、西側の断層はこの深海平坦面を分断するように東西方向に延び、KS1層まで変位変形させている。調査区域の北東端付近から西に延びる長さ22kmの断層とその西方の長さ8kmの断層はともにKS1層まで変位変形させている。

釧路海底谷西側では南東部に位置する広尾海脚の東側は断層で落ち込み、KS4層の断層崖を形成しKS1層～KS3層がKS4層にアバットしている。大陸斜面中部に位置する3本の断層は長さ5km以下の北落ちであり、北側の断層はKS1層まで、南側の2本はKS2層まで変位変形させている。



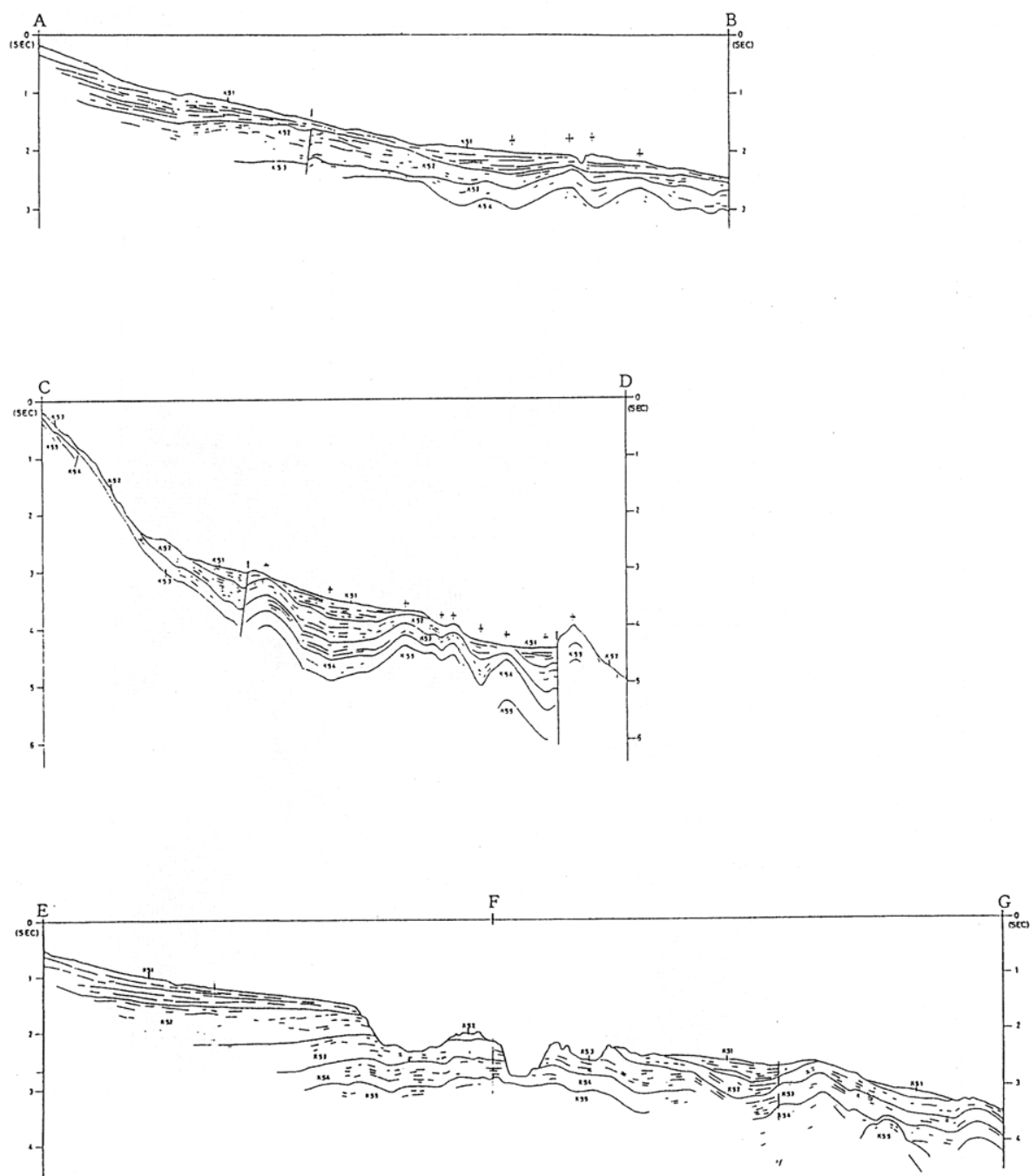
第 1 図 釧路沖海底地質構造図(1)

Fig.1 Geological Map off Kusiro(1)



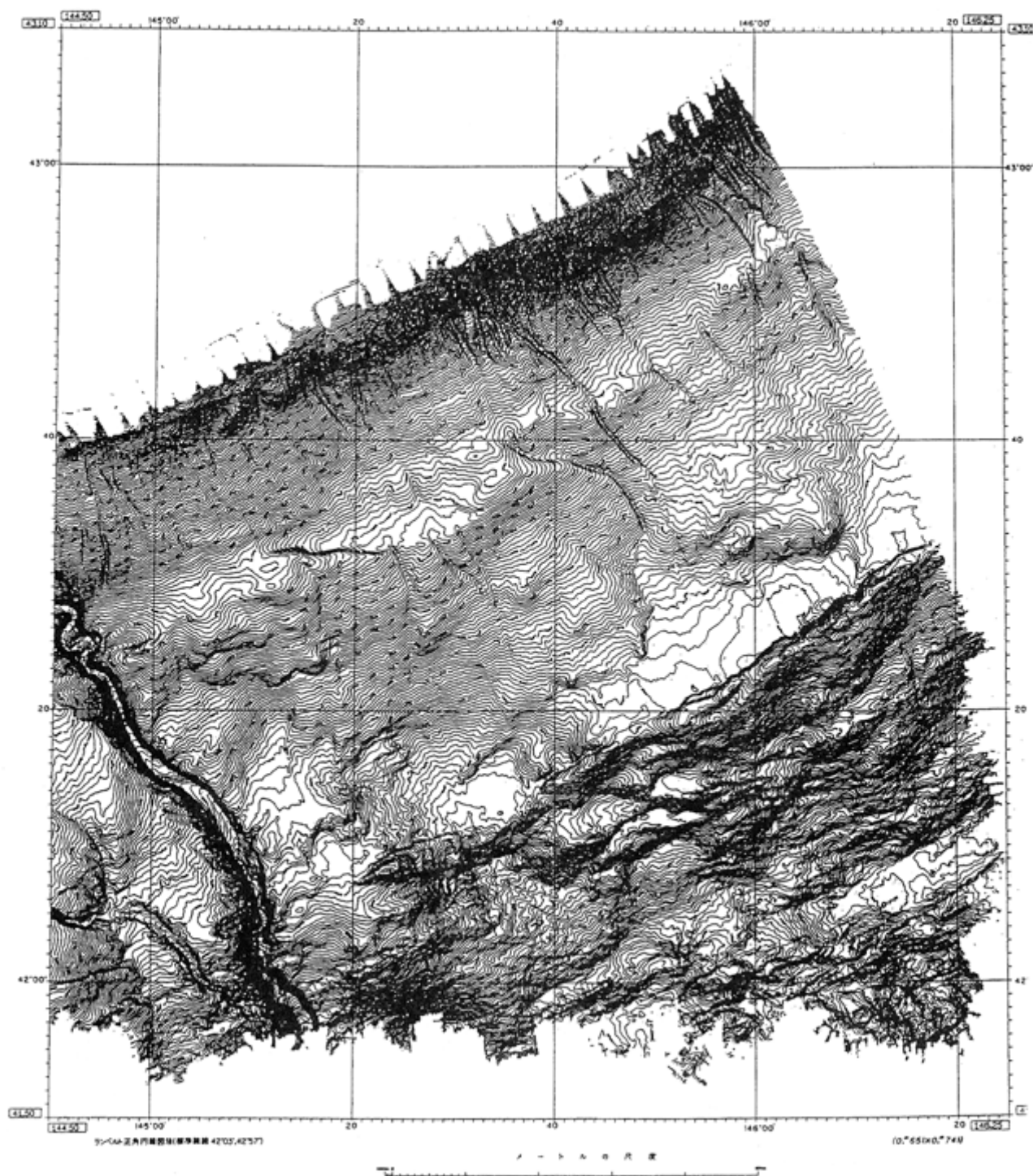
第 2 図 釧路沖海底地質構造図(2)

Fig.2 Geological Map off Kusiro(2)



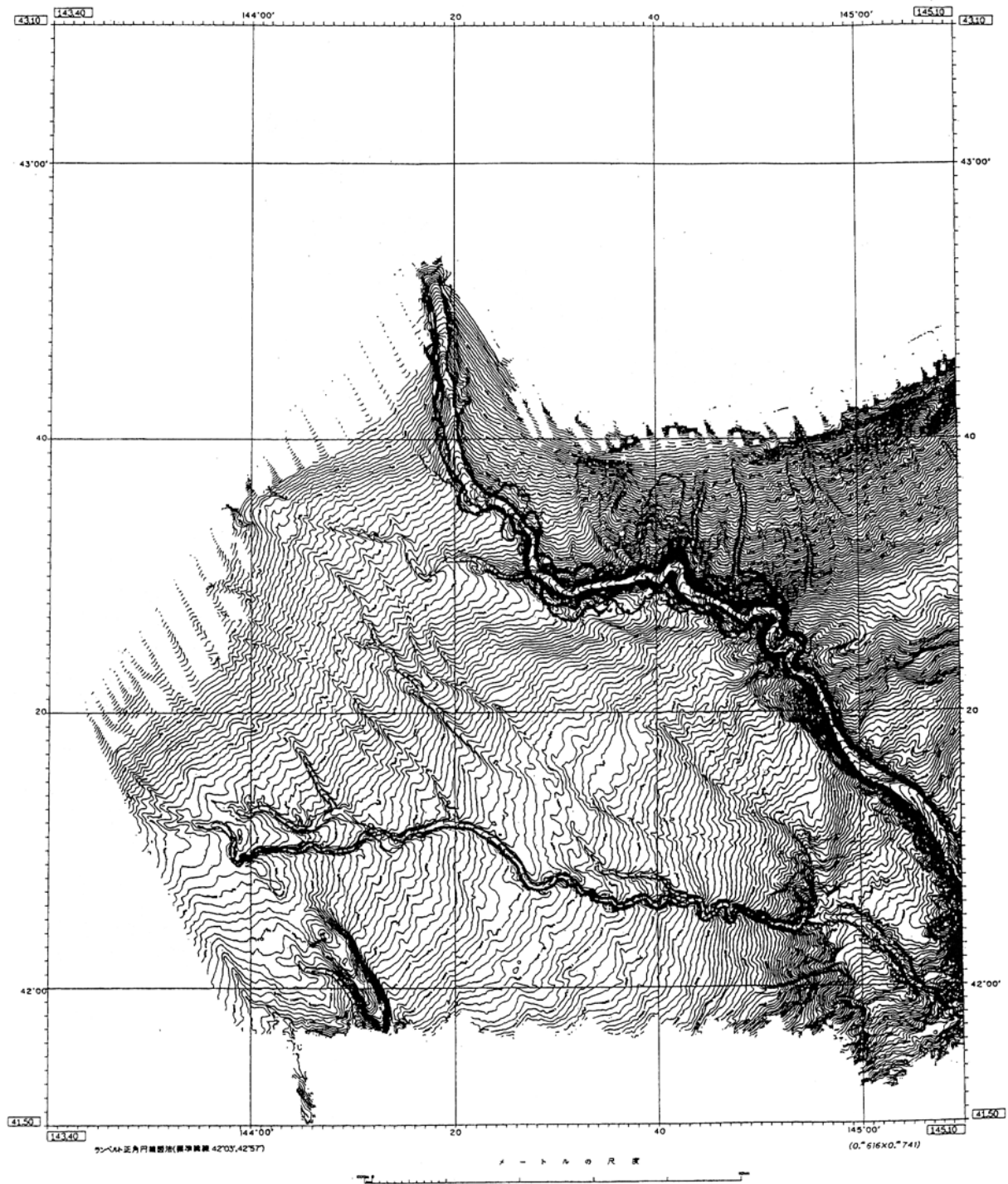
第 3 図 釧路沖海底地質断面図

Fig.3 Geological Section



第 4 図 釧路沖海底地形図(1)。等深線間隔 20m

Fig.4 Bathymetric Map off Kusiyo(1)



第 5 図 釧路沖海底地形図(2)。等深線間隔 20m

Fig.5 Bathymetric Map off Kusiyo(2)